

平成26年度購入文化財一覧

【奈良国立博物館】(計15件)

<p>1</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等 ○作品概要 ○購入金額</p>	<p><絵画> 絹本着色春日宮曼荼羅 (けんぼんちやくしよくかすがみやまんだら) 一幅 鎌倉時代 13世紀 絹本着色 掛幅装 (本紙)縦 87.3 cm 横 41.8 cm (表具)縦 175.5 cm 横 59.3 cm 西から東を向いた視点で春日社の景観を描く作品。一の鳥居を起点として参道をたどり、上部に社殿、さらに春日山を描く。その上に五個の円相を配し、その中に春日の若宮を含めた五柱の神の本地仏を表す。この種の作品のなかでもとりわけ古様を示し、春日宮曼荼羅の初期の様相を示す貴重な作品。 43,200,000円</p>	
<p>2</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等 ○作品概要 ○購入金額</p>	<p><絵画> 絹本着色釈迦十六善神像 (けんぼんちやくしよくしゃかじゅうろくぜんじんぞう) 一幅 鎌倉時代 13世紀 絹本着色 掛幅装 (本紙)縦 176.5 cm 横 122.4 cm (表具)縦 258.2 cm 横 140.4 cm 大画面の中央に釈迦如来坐像、その周囲に大般若経の守護神である十六善神ほかの諸尊を配する。賦彩の手法や全体の作風から、鎌倉時代前期に南都で制作された作品とみられ、この種の作品のなかでも古い時期の大作として貴重なもの。なお箱書によって大コレクターとして名高い武藤山治の旧蔵品と判明する点も興味深い。 17,280,000円</p>	

3	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><絵画> 愛染明王印仏（あいぜんみょうおういんぶつ） 一枚 鎌倉時代 14世紀 紙本朱印 縦16.4cm 横48.5cm</p> <p>奈良・元興寺の重要文化財・木造弘法大師坐像の納入品であったと見られる愛染明王の印仏。同像の納入品として今も付属する42枚の愛染明王印仏は、印捺される愛染明王の尊容・像高や、料紙1紙あたり3体16列、合計48体前後を表す構成も、本品と共通する。色鮮やかな朱色の印影を残す、展示効果の高い作品。</p> <p>3,240,000円</p>	
4	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><絵画> 最勝曼荼羅（さいしょうまんだら） 一幅 室町時代 文安元年（1444） 絹本着色 掛幅装 縦335.0cm 横202.8cm 総縦383.7cm 総横218.8cm</p> <p>室町時代の興福寺では数年に1度、祈雨のため『金光明最勝王経』6部の書写と「最勝曼荼羅」の制作・祈祷が行われたが、本品はこの法要のため描かれ祈祷されたことが確定できるもの。年紀をともない、このときの法要については『大乘院寺社雑事記』などの文献にも記録がある。文献と実作例が結びつく点において、稀少かつ貴重な美術作品。</p> <p>32,400,000円</p>	
5	<p>○種 別 ○名 称</p> <p>○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><書跡> 天永二年十一月二十一日東大寺注進状案（紙背 遠江国条里坪付帳断簡） （てんえいにねんじゅういちがつにじゅういちにちとうだいじちゅうしんじょうあん（しはい とおとうみのくにじょうりつぽつけちょうだんかん）） 一通 平安時代 天永2年（1111） 紙本墨書 未装丁 縦28.8cm 横97.4cm</p> <p>天永2年10月に設置された記録所に関わる数少ない史料のひとつとして、学界では著名なものである。伊賀国黒田荘の領有権をめぐる東大寺と興福寺の相論に関わる内容で、日本の荘園史上の重要文書。裏面は遠江国条里坪付帳の断簡。「遠江倉印」が捺された現存唯一の文書として、これも重要かつ著名なもの。</p> <p>4,000,000円</p>	

6	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><彫刻> 木造如来立像（もくぞうによらいりゅうぞう） 一軀 平安時代 10～11世紀 木造 彩色 像高 147.8 cm 髪際高 137.9 cm</p> <p>櫃の一材から根幹部を彫成する一木彫像で、周尺にもとづく六尺像とみられる。肘を脇につけたやや窮屈な姿勢や、着衣の襞の形式、顔の表情や耳のかたちなどから、南都を中心に散見する、古代の金銅仏を木彫に写した作品とみなされる。像内の墨書から、いずこかの春日社に伝来した可能性があり、神仏習合の遺品と考えられる。</p> <p>43,200,000円</p>	
7	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><彫刻> 銅造光背（どうぞうこうはい） 一面 平安時代 12世紀 銅造 鍍金 総高 28.9 cm 最大幅 22.4 cm</p> <p>銅造透彫の光背。中央部は八葉蓮華を中心とする二重円相光で、雲文を表した周縁部がこれに付く。モチーフや構造技法及び寸法の一一致する作品に、京都・醍醐寺の銅造阿弥陀如来坐像（重要文化財）光背があり、本品とはその制作工房・制作時期を同じくするものと思われ、平安後期の工房制作の実態を考えるうえで貴重なもの。</p> <p>10,800,000円</p>	
8	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><金工> 金銅火焰宝珠形舍利容器 （こんどうかえんほうじゅがたしゃりようき） 一基 鎌倉～南北朝時代 14世紀 銅製 鍍金 総高 13.2 cm 框座径 6.8 cm 舍利容器高 3.7 cm 同径 3.7 cm</p> <p>金銅製の蓮台に水晶製の宝珠形舍利容器が乗るつくりで、舍利容器は金銅板製の火焰で固定されている。釈迦牟尼仏の骨になぞらえられる舍利に対する信仰は古代から存在するが、鎌倉時代以降、とくに盛んとなり、多くの舍利容器が作られたが、本品はそのなかでも精巧なつくりを示し、この種遺品を代表するに足るもの。</p> <p>25,900,000円</p>	

9	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><金工> 金銅能作性塔（こんどうのうさしょうとう） 一基 南北朝～鎌倉時代 14～15世紀 銅製 鍍金 総高 25.5 cm 框径 14.5 cm 宝珠高 7.4 cm 同径 7.5 cm</p> <p>蓮台上に火焰宝珠を安置する形式をとる。宝珠は内部を空洞とし、鍍金を施しており、ここに能作性珠を奉籠できる構造。能作性珠は釈迦の遺骨である舍利と密教の最高尊である大日如来とを同一視する思想を背景としており、とくに醍醐寺系の真言密教において重視された。本品は醍醐寺系密教の影響を受けた西大寺等真言律宗において製作・安置された可能性がある。</p> <p>30,240,000円</p>	
10	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><金工> 愛染明王彩繪舍利厨子 （あいぜんみょうおうさいえしゃりずし） 一基 室町時代 弘治2年（1556） 木製 黒漆塗 高 20.0 cm</p> <p>銘文によって舍利奉籠のための厨子であることが判明する作品。奈良・正暦寺円満院の僧興盛の発願により、春日社西之屋の地藏菩薩の宝前に寄進されたことがわかる。奥壁には愛染明王像を表しており、舍利ないし宝珠と愛染明王の信仰が重層的に結びついた密教修法である「如法愛染法」に関わる遺品と考えられる。</p> <p>8,640,000円</p>	
11	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><金工> 金銅蓮華形磬（こんどうれんげがたけい） 一面 鎌倉時代 13世紀 銅製 鍍金 最大縦 9.6 cm 最大幅 17.3 cm</p> <p>仏具のなかでも合図のために鳴らしたりあるいは音を仏に供するための用具である梵音具に属する遺品。多数を占める山形磬と異なり、蓮華形をなす点に特徴があるが、鎌倉時代以降、他にも若干の作例がある。他の類品との形状の比較から、13世紀後半頃の制作期が推定される。鍍金もおおむねよく残り、保存状態は良い。</p> <p>15,000,000円</p>	
12	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><金工> 金銅都五鈷杵（こんどうすべごこしよ） 一口 南北朝時代 14世紀 銅製 鍍金 全長 12.3 cm</p> <p>密教法具の一遺品。鈷部が五叉に分岐する五鈷杵だが、脇鈷が中鈷に向かってすぼまり、独鈷杵に近い形状を示す、いわゆる都五鈷杵と呼ばれるもの。都五鈷杵は重要文化財に指定される京都・仁和寺の作品を代表として、数例が知られている。形状の特徴から、14世紀頃の制作と目される。</p> <p>1,620,000円</p>	

<p>13</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><考古> 人面付蓮華文鬼瓦（八島廃寺出土） （じんめんつきれんげもんおにがわら（やしまはいじしゅつど））</p> <p>一面</p> <p>飛鳥時代 7世紀</p> <p>瓦製</p> <p>高 22.1 cm 幅 23.0 cm 厚 2.9 cm</p> <p>滋賀県長浜市に所在する飛鳥時代（白鳳期）の寺院遺跡である八島廃寺から出土したとみられる鬼瓦。中央に蓮華文をおき、周囲に童子風の人面を配する。このモチーフは朝鮮半島からの影響を受けたものと考えられ、渡来系氏族との関連が指摘されている。7世紀の日韓交流史を考えるうえで重要な資料。</p> <p>7, 000, 000円</p>	
<p>14</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><考古> 伝滋賀県比叡山根本如法堂付近出土品 （でんしがけんひえいざんこんぽんによほうどうふきんしゅつどひん）</p> <p>一括</p> <p>平安時代 12世紀</p> <p>外容器：陶製 和鏡：銅製 青白磁合子・小壺：磁製 ガラス小壺・水滴：ガラス製</p> <p>外容器：総高 33.0 cm 和鏡：径 8.4~10.0 cm 青白磁合子：総高 2.9~3.1 cm 青白磁小壺：総高 6.2 cm ガラス小壺：身高 3.2 cm ガラス水滴：高 4.2 cm</p> <p>天台宗の総本山延暦寺の所在する比叡山の横川根本如法堂付近は、慈覚大師円仁が行った法華経如法書写ならびに埋経への結縁の意識により、多数の経塚が営まれた地域だが、本品もその付近からの出土と伝えられる。猿投か常滑で焼かれたらしい陶製外容器や2面の和鏡、中国・宋代の青白磁合子および小壺、同じく宋代のガラス小壺、ガラス水滴等からなる。とくにガラス水滴は世界でも唯一の現存遺品と目され、きわめて貴重な遺品。</p> <p>8, 640, 000円</p>	
<p>15</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><考古> 伝奈良県葛城市出土品（銅製骨藏器） （でんならけんかつらぎししゅつどひん（どうせいこつぞうき））</p> <p>一口</p> <p>奈良時代 8世紀</p> <p>銅製</p> <p>口径 19.2 cm 現状高 12.8 cm</p> <p>奈良県葛城市（旧新庄町）の城山から出土したと伝えるもの。形状の特徴から奈良時代の遺品と見られ、内部にはわずかに骨片状物質が付着している。銅製の骨藏器で奈良時代にさかのぼる遺品は西日本に約十例がある程度で、その意味でも貴重。</p> <p>10, 800, 000円</p>	